

# 平和を考える 「小中学生作文集第三十五集」の発行によせて

沼津市  
沼津市教育委員会

沼津市は、昭和六十二年三月二十日に、市議会の議決を得て「核兵器廃絶平和都市宣言」を行いました。核兵器の廃絶は、世界の人々の共通の願いであり、核戦争の危機に対する市民及び市議会の意思を踏まえて、平和への願いをあらわしたものです。

この作文集は、市内の小中学生が、授業や各メディア、身近な人の体験談などから、平和について感じたことを作文や詩で表現した作品を掲載したものであり、本年も多くの作品が寄せられ、第三十五集として発刊することができました。発刊にあたって、ご理解、ご協力をいただいた小中学生の皆さんや関係者の方々に、心から感謝申し上げます。

令和四年に突如始まったロシアによるウクライナ侵略は、依然として終息の兆しが見えず、また、複雑な歴史的背景をもつパレスチナ問題では、イスラエルとパレスチナ武装勢力間の衝突により、民間人を含めた尊い命が日々失われています。

我が国は、終戦から間もなく八十年を迎えます。戦争を実際に体験された方から直接お話を伺う機会が段々と失われていく中で、過去に自分たちの国で起きた惨事を後世に伝承していくことは、今を生きる私たちの使命でもあります。

作文の中では、広島、長崎、沖縄等の戦地を実際に訪れ、過去に起きた惨状を知り、現在の当たり前で平和な生活がどれほど幸せなことなのかを改めて感じたというもの、戦争や被爆の悲惨さについて、まず自分たちが知り、それを伝えていくことが大切であるというもの、日々の生活から平和に向けて自分たちができることを実践していくことを誓うものなど、戦争を知らない世代だからこそすべきことは何なのかと真剣に考える姿勢がうかがえました。

平和を希求する心はいつの時代も不変です。小中学生の皆さんが、この作文集を通じて抱いた想いを忘れることなく、平和な未来を築き、さらにまた次の世代へ引き継いでいかれることを信じています。

どうか、一人でも多くの方々に、平和を愛する子供たちの声が届くことを願っております。